

先週の回答

余韻 嫻嫻



「たとえば、電話をかけたながら何度も頭を下げている人を見かけたことがあるだろう」

「あります。あれは無意味です。電話では相手が見えないんですから」

「それがちがう」

「見えるんですか？」

「残心が大事なんだ」

「残心？」

「相手に見えないが、先方の気持ちを考えて、心を残すようにすることだ」

「といたしますと？」

「つまり、電話を切るときも丁寧に頭を下げているのは、心の余韻を大切にしているからなんだ」

「余韻？」

「聞いたことがあるだろう？余韻嫻嫻（よいんじょうじょう）」

「ありません」

「お寺の鐘などを鳴らしたとき、音は消えても響きがいつまでも続いている、あれだ。名作の映画を見終わって感動が尾を引いてすぐには席を立てないことがあるだろう、あれだ」

「あれですか？」

「嫻嫻は音や声が長くとぎれないという意味、余韻はあとに残る響き」

「パパのオナラがそれですね」

「余韻とはいわない。余臭という、オナラは」

残心が相手に伝わる。



